

夜冷短日処理と窒素追肥によるいちご促成前進作型の年内収量向上技術

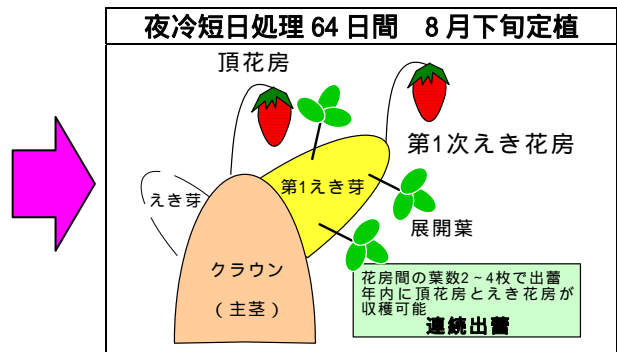
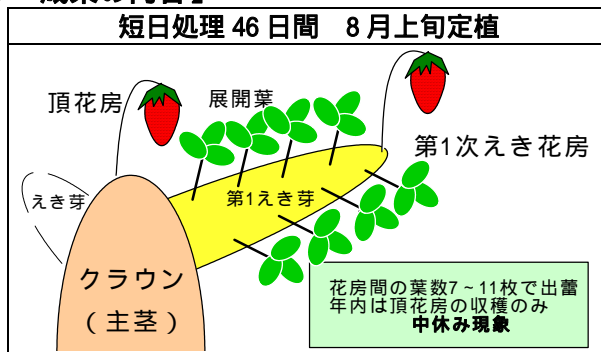
【1 成果の概要】

- (1) 促成前進作型において、促成用品種「さちのか」を64日間夜冷短日処理することで、頂花房と第一次えき花房が連続出蕾し、単価が高い年内の収量が向上します。
- (2) 夜冷短日処理開始34日目より25日間、OKF-1 2000~3000倍液を1日1回かん水を兼ねて追肥することで、頂花房の出蕾が早まり、第一次えき花房の出蕾も安定します。
- (3) 促成前進作型(10~11月収穫)に比べ、簡易夜冷処理施設の導入経費が増加しますが、単価の高い10~2月までの収量が向上するため、10a当たり約500千円の所得向上が可能となります。また、促成作型と比較すると10a当たり約1,800千円の所得向上となります。

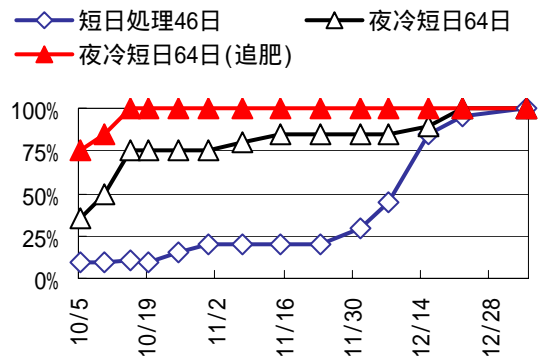
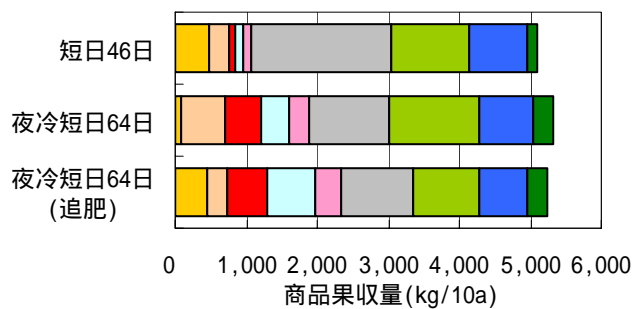
【2 処理方法】

2月下旬	5/24	6/23	7/26	8/19	8/26
親株保温開始	採苗~株養成 (10.5cmポットへ挿し芽)	夜冷短日処理 <簡易夜冷処理施設> (暗期 17:30~8:30、冷房設定温度 22)			定植
			追肥処理(朝1回実施)		

【3 成果の内容】



■ 10月 ■ 11月 ■ 12月 ■ 1月 ■ 2月 ■ 3月
■ 4月 ■ 5月 ■ 6月



10a 当たり収益性 追肥: OKF-1 2000 倍液(窒素成分で 75ppm)で処理 株間 20cm 1,100 株/a

作型	収量	平均単価	粗収益(A)	変動費(B)	固定費(C)	所得(C-D)
促成作型	5,235kg	718 円/kg	3,756 千円	1,653 千円	1,009 千円	1,093 千円
促成前進 1 短日 46 日	5,101	1,064	5,428	1,927	1,076	2,424
促成前進 2 夜冷短日 64 日	5,228	1,158	6,051	2,009	1,148	2,894

【4 留意事項】

- (1) 「さちのか」以外の品種については未検討です。
- (2) 簡易夜冷処理施設(初期導入経費約1,000千円/10a)の導入が必要です。